

主な環境指標の実績および将来目標

(1)原子力設備利用率向上による効果

厳冬の影響により暖房需要が増加したことなどから、販売電力量が増加いたしました。が、原子力設備利用率が上昇*したことにより、環境負荷(CO₂、SO_x、NO_xの排出量)は総じて前年度に比べ改善ないし同程度となりました。

*原子力設備利用率： 2004年度実績61.7% 2005年度実績66.4%

a. CO₂

2005年度のCO₂排出量は1億730万トンと、前年度に比べて190万トン(約2%)減少いたしました。また、CO₂排出原単位(販売電力量1kWhあたりのCO₂排出量)も約2%減少し、0.372kg-CO₂/kWhとなりました(1990年度に比べて約3%減少)

		実績(年度)			将来目標 2010年度
		1990年度	2004年度	2005年度	
CO ₂ 排出原単位	(kg-CO ₂ /販売kWh)	0.382	0.381	0.372 (-2.4%)	1990年度比20%削減 0.31程度
CO ₂ 排出量	(万t-CO ₂)	8,410	10,920	10,730 (-1.7%)	—
販売電力量	(億kWh)	2,199	2,867	2,887 (+0.7%)	—
原子力設備利用率	(%)	71.3	61.7	66.4	—

()は前年度比

(注)「地球温暖化対策の推進に関する法律」上の「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に関わる当社のCO₂排出係数(排出原単位)は、別途、国により公表される予定です。

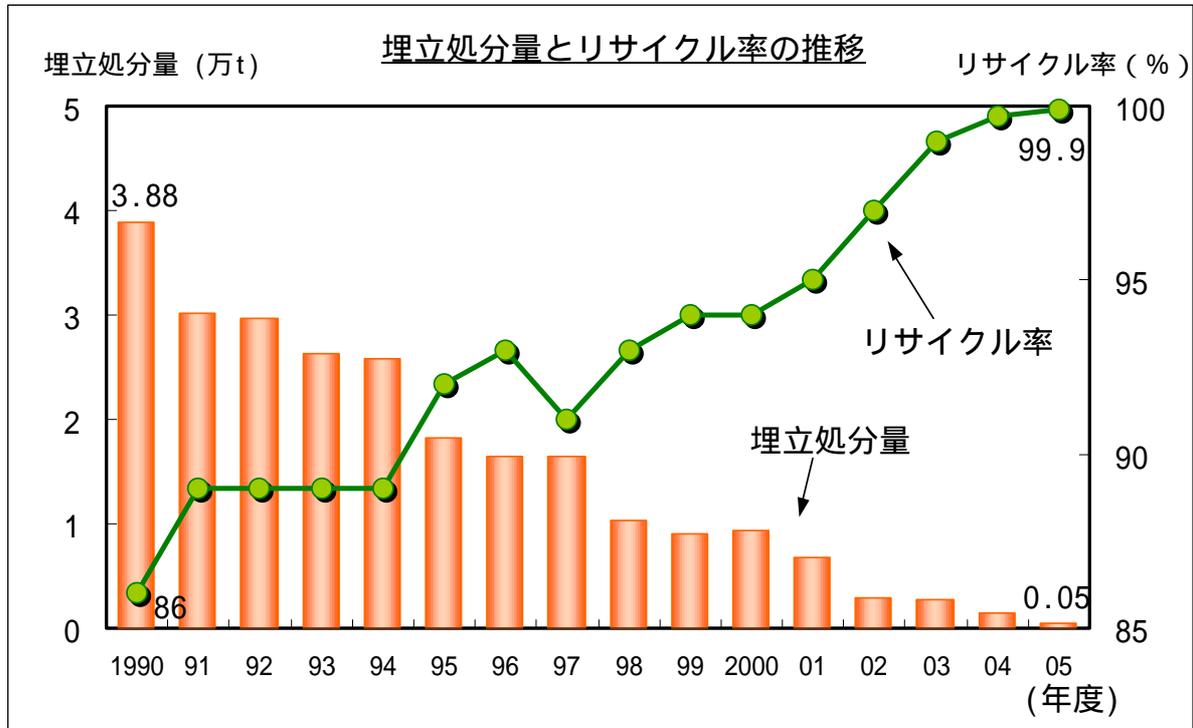
b. SO_x、NO_x

2005年度のSO_x、NO_xの排出原単位は前年度と同程度となり、引き続き世界最高水準のクリーンレベルを維持しております。

		実績(年度)			将来目標 2015年度
		1990年度	2004年度	2005年度	
SO _x 排出原単位	g/kWh	0.17	0.08	0.08	0.1以下
NO _x 排出原単位	g/kWh	0.22	0.10	0.10	0.1以下

(2)2005年度の産業廃棄物のリサイクル率は、ほぼ100%

当社は、2001年度に「2005年度までに産業廃棄物のリサイクル率100%」という目標を設定し、全社をあげて取り組みを進めてきた結果、ほぼ目標を達成することができました。今後は、こうした取り組みをグループ会社にもまで拡大して「2010年度までに産業廃棄物のリサイクル率100%」の達成を目指します。



以上